

活躍する先輩たち

いまの仕事、静大で過ごした日々、後輩たちへのメッセージなどをお聞きました。



子どもたちのキラキラした 笑顔が元気の源です！

この あやな
郷野 紋菜 さん

教育学部／音楽教育専修（2018年卒業）
小学校教諭

1995年生まれ、静岡県立静岡東高等学校卒。
趣味は、ピアノ演奏と旅行。好きな言葉は「笑顔満開」。

●子どもたちの成長が私のやりがい

ずっと続けてきた音楽を生かして、大好きな子どもと関わる仕事に就きたいと思っていました。大学在学中に行った教育実習で、「絶対に教員になる！」と決心。毎日、子どもたちを一番近くで見て、その成長に関わることができ、大きな喜びを感じています。大変な面もありますが、自分が頑張った分、授業で子どもたちが積極的に取り組み、真剣に考えている姿が見られたり、「楽しかった」という声が聞けたり…形で返ってくるのでやりがいがありますね。子どもたちは本当に可愛いです。日々の成長や、キラキラした笑顔が、私の元気の源です！

●静大の恩師とのかけがえのない出会い

静岡大学を選んだのは、地元で大好きな音楽に存分に触れ、教師になるという夢に向かって4年間過ごせると思ったからです。幼い頃から出場していたピアノコンクールの審査員を静大の音楽教育専修の教授が務

めていたことも決め手になりました。恩師の後藤友香理先生は、音楽の事はもちろん、どんなことにも親身に相談にのってくださいました。日々の過ごし方も素敵で、憧れていました。卒業後も気にかけてくださり、ゼミ生全員、後藤先生のことが本当に大好きです！発表会には今年毎年出演させていただき、とても楽しいです。ずっと仲良くしたいと思える貴重な友だちとの出会いも、人生を豊かにしてくれています。

●学生時代は「やりたいこと」を試そう

大学在学中は、やりたいことを試すことができる貴重な時期です。とにかく行動して、今しかできない経験をたくさんしてほしいです。きっと今後の財産になるはずです。私は、時間に余裕がある学生時代に、もっと英語を勉強して資格を取っておけばよかったなあと思っています。どんな職業でも役立つと思います。アルバイトは飲食店で丸4年、塾講師も丸2年続けました。飲食店では、お互い



ゼミの仲間と卒業旅行で訪れたベトナムで

を思いやり、周りを見ながら臨機応変に対応すること、塾講師では、生徒一人ひとりに応じた指導と準備の大切さを学びました。掛け持ちは大変でしたが、どちらの経験も今の仕事に活かしています。同じ仕事を長く続けられたことも、プラスになっていますね。今、学生の皆さんはオンライン授業が続いていますが、早く実体験・実経験がたくさんできる授業が始まるといいですね。普段経験できないスポーツやレジャー、食文化、文化財などを学ぶ授業があれば、いろんな人と関わるきっかけも生まれると思います。

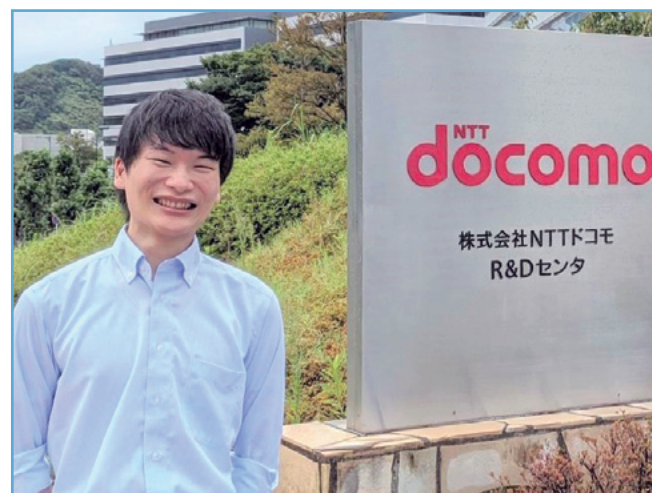
Ayana
Gono



卒業演奏会にて



沖縄にてソーウォーク中
卒業後も趣味の旅行を楽しんでいます



情報学を活かして 社会の課題を解決したい

かねだ ゆきまさ
兼田 千雅 さん

総合科学技術研究科情報学専攻（2017年修了）
株式会社NTTドコモ 勤務

1993年生まれ、浜松市立高等学校卒。
大学ではサイクリング部に所属。現在も楽しんでいる。

●自分の技術で社会課題の解決を

大学時代の集大成ともいえる研究では、「自身の技術で農業分野の課題を解決した」と実感できる結果を残すことができました。研究開発職を志望した理由も、大学時代に得た知識と経験を活かし、より社会への影響力が強い立場から様々な分野の課題解決に挑戦し、自身が思い描く世界を現実にしたいと思ったからです。自分の技術で実際に多くの人々に影響を与えることのできる今の仕事には、非常にやりがいを感じています。

●ICTに没頭した研究室での日々

大学入学前から、コンピュータやインターネットの仕組みに興味があり、「情報通信技術（ICT）を深く学び、将来はICTを活用して社会に影響を与えられる人物になりたい」という思いから、静岡大学情報学部に進学しました。日々の授業でICTの基礎を学びつつ、研究室配属後はひたすら研究に没頭する毎日でした。研究では、情報学部で学んだICTの知識を

もとに、全くの専門外だった農業分野の課題解決に挑戦しました。恩師は、峰野博史先生です。峰野研究室では、センサによるデータの収集、機械学習を活用したデータの分析、分析結果に基づくデバイスの制御といった実践的なICTの知識を深く学びました。この経験があったからこそ、入学前から思い描いていた理想の人物に近づくことができた実感しています。社会に出て、情報学という観点から社会課題の解決に取り組みたい人にとっては、統計学や機械学習などのデータ分析に関する授業もとても重要だと思います。

●全国を旅して気づいた「まずは挑戦」

「今しかできないことがある」がキャッチフレーズのサイクリング部に入部し、日本全国を旅しました。重い荷物を積みながら初めての土地を長時間走る自転車の旅は非常に過酷なものでしたが、困難を乗り越えて目的地に着いた時、今まで味わったことのない達成感があることを知りました。

この時に生まれた「知らないことでも、まずは挑戦してみよう」という気持ちは、その後の研究活動や社会人生活にも活かされています。



大学時代に得た知識と経験を
活かすことのできる職場です

●「今しかできないこと」を積み重ねて

大学時代は自分の人生の中で最も色々な経験をした時期でした。授業や研究、部活動、アルバイトなど、様々な場所で学びや経験を積み重ねていくうちに、将来やりたいことが徐々に明確になっていったように思います。学生の皆さん、時間や体力があるうちに、ぜひ、たくさんの「今しかできないこと」に挑戦してください！

Yukimasa
Kaneda



学会発表で行った
シンガポールにて



愛機と共に